



仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム
2026年度 活動説明会

2026/6/30 (火)

2026年度 活動説明会

- ・ 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームの取組紹介
- ・ 2026年度の年間活動予定
- ・ 事例紹介 | 仙台BOSAI-TECH参画事業者の取組

■ 事業創出プログラムのご案内

- ・ Future Awards | テクノロジーで明日を守る課題探求プログラム
- ・ Open Bridge | ソリューションを社会実装につなげる磨き込みプログラム

■ 事業化・社会実装プログラムのご案内

- ・ 実証実験・試作開発支援 | 企業が自ら設定した課題に対する検証

■ 海外展開支援プログラムのご案内

- ・ Step Abroad ! | 海外展開にむけた第一歩を支援

- ・ 内閣府防災担当様からのご案内

主催者挨拶

仙台市 経済局イノベーション企画課長 小池 伸幸

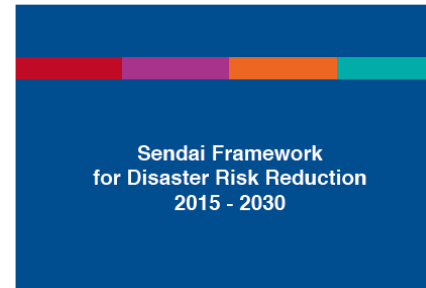
仙台BOSAI-TECHの取組紹介

仙台市 経済局イノベーション企画課 成長産業係長 菊地 健

仙台防災枠組2015-2030

● 第3回国連防災世界会議（2015年3月開催）

幾多の災害から日本が得た教訓、防災技術・ノウハウ等の発信。
国際的な防災の取組指針「仙台防災枠組2015-2030」を採択。



● 持続可能な開発目標（SDGs）（2015年9月決議）

ターゲット11.b（抜粋）

『2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。』



仙台経済COMPASS（2024年～2026年）

目標

2030年度における「市内総生産の過去最高額の更新」

計画期間

※市内総生産（実質）の過去最高額は2017年度の5兆3,129億円（令和2年度仙台市の市民経済計算）

2024年度～2026年度

本計画期間は目標達成に向け、企業や地域経済の「変革」を軌道に乗せるための取り組みを進めます。2027年度以降の施策展開については、外部環境の変化等を踏まえ別途検討を行います。

2030年を見据えた変革への3つの視点

視点1

多様な主体の活躍と参画

視点2

新たな市場への挑戦

視点3

他分野との融合による成長

6つの重点プロジェクト

1.「企業の変革に向けた『戦略的ダイバーシティ』の推進」プロジェクト

2.「学都の『知の力』を活かしたイノベーション創出」プロジェクト

3.「地元中小企業の変革と成長促進」プロジェクト

4.「『防災環境ビジネス』の推進」プロジェクト

5.「DXによる経済成長と暮らしやすさの向上」プロジェクト

6.「外貨獲得のための『エリア価値』の向上」プロジェクト

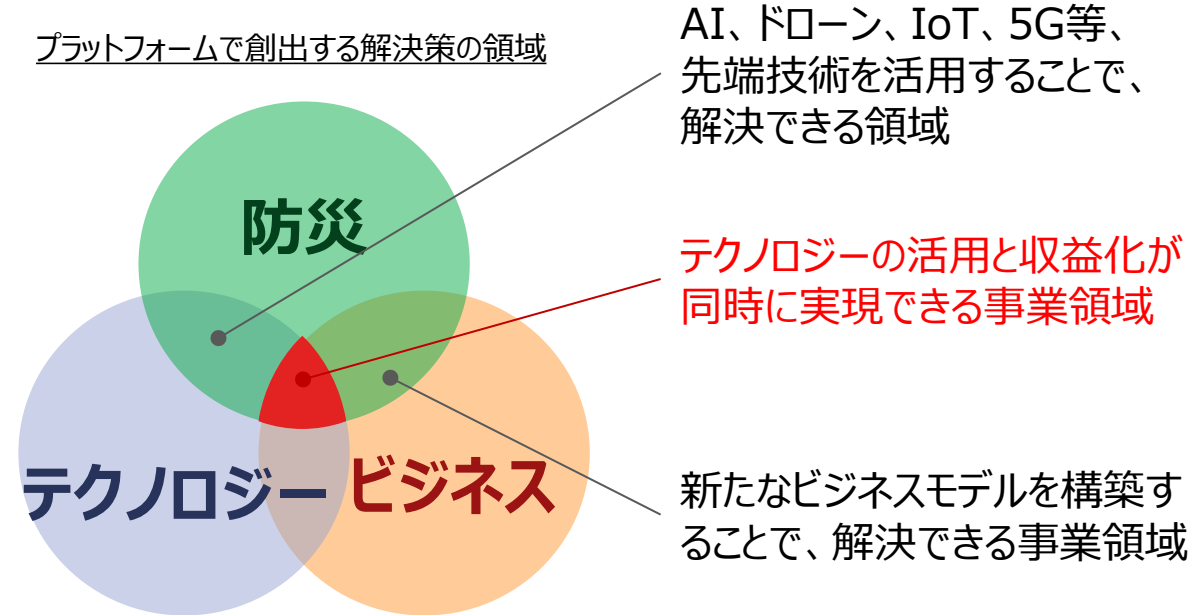
- “防災環境都市”としてのプレゼンスの高さを活用
- オープンイノベーションを加速させBOSAI-TECHの国内外への展開を進める

仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム

■ BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームの設立と目指す姿



2022年2月3日にプラットフォームを設立
(2026年5月31日時点で333の団体が参画)



『仙台防災枠組』の実現を目指し、【防災】×【テクノロジー】×【ビジネス】を融合した
新たな解決策を生み出す場となり、その解決策を仙台、日本全国、世界へと展開する

プラットフォーム会員（抜粋）



and more

民間企業

276

地方自治体

34

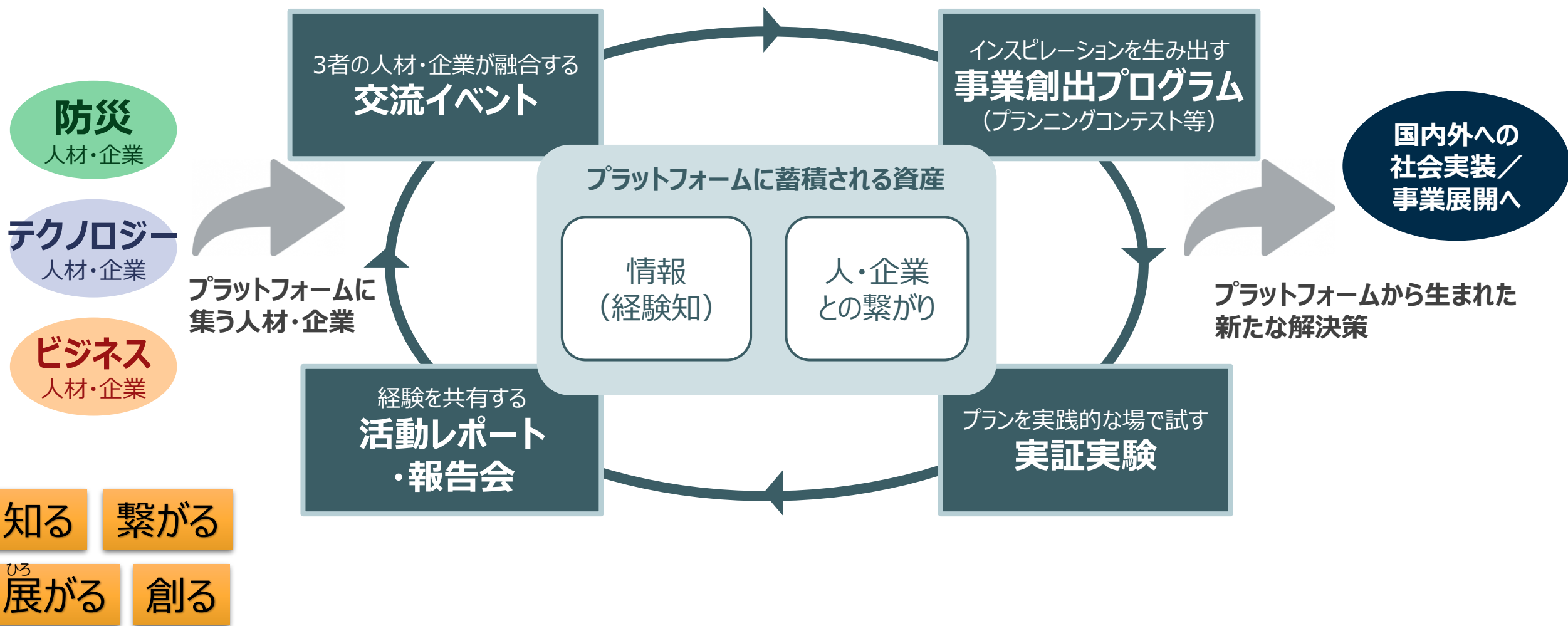
学術研究機関・その他

23

合計333

※2026年5月31日時点

プラットフォームの活動内容



BOSAI-TECHの取組の拡がり

2025年度より新たに気候変動対策・脱炭素等の視点を取り入れる



将来の「防災・減災」対策

防災

危機管理局

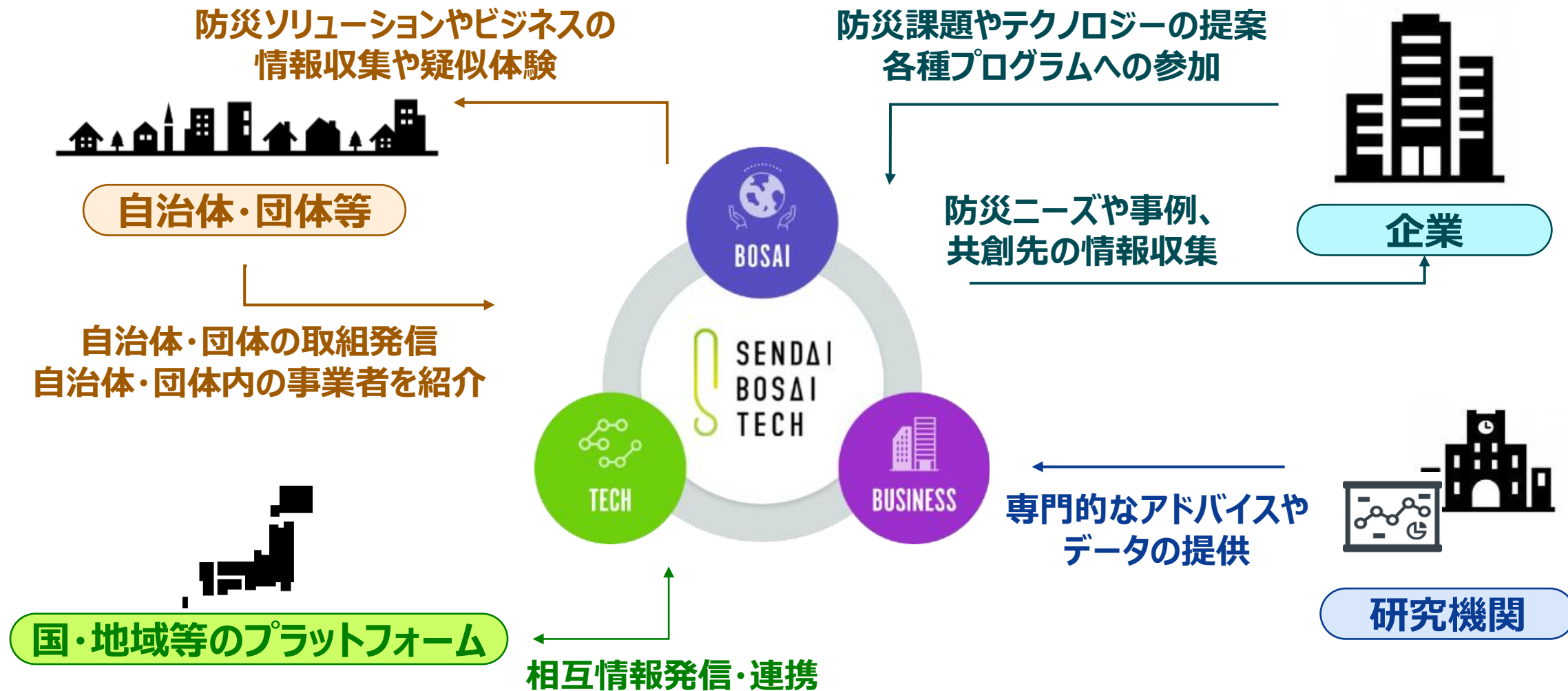
環境

(気候変動対策・脱炭素等)

環境局

課題提示や現場視察により各分野におけるソリューション開発を支援

プラットフォームの活用



国内外への発信

大阪・関西万博
(大阪、夢洲)
2025年5月28日～6月1日



日台災害リスク軽減カンファレンス
(高雄, 台湾)
2026年1月30日



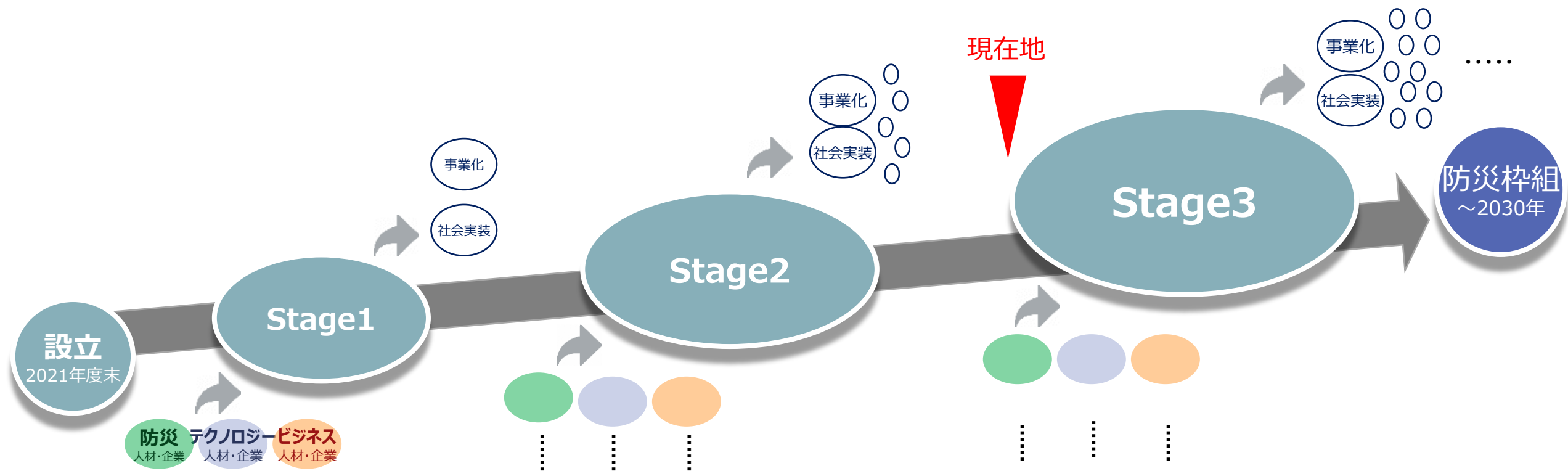
Global Platform for DRR
(ジュネーブ, スイス)
2025年6月4日～6月6日



世界銀行研修：緊急事態への備えと対応
(東北大災害科学国際研究所)
2026年4月23日



仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームのロードマップ°



防災・テクノロジー・ビジネスの人材が集まり、
仙台(東北)を中心に解決策創出が試みられる

他自治体でも解決策の創出が進み、
日本全国へBOSAI-TECHの取組が広がり始める

海外展開が進み、
BOSAI-TECHのエコシステムが成熟する

企業版ふるさと納税

仙台BOSAI-TECHでは、「企業版ふるさと納税」によるご支援を募集しています。皆様からのご寄附は、防災課題の解決や防災産業の発展に活用し、より安全で強靱な社会づくりへとつなげてまいります。未来を守る取り組みに、ぜひご協力ください。

※寄附額の最大約9割が法人関係税から控除・損金算入されます

※BOSAI-TECHを国際会議等で発信する際に、ご協力企業としてお名前を掲載いたします

【仙台市】企業版ふるさと納税 ※『成長産業振興事業』として受付

URL : <https://www.city.sendai.jp/machizukuri-kakuka/shise/kigyoubanhurusato/kigyoubanhurusato.html>



問合せ先 : kei008030@city.sendai.jp (仙台市イノベーション企画課) 少しでもご関心がありましたらお気軽にお問い合わせください

仙台BOSAI-TECH 2026年度の活動予定

2026年度 プログラム概要

詳細は

リーフレットを
ご覧ください▶



事業創出プログラム

防災課題をテクノロジーで解決する
アイデアの事業化を支援

テクノロジーで明日を守る 課題探求プログラム

フューチャーアワーズ
Future Awards

自治体が提示する課題の解決を目指し、アイデアの有用性や事業化に向けた実現性の検証を支援。一部、自治体課題をより深く理解するための現場視察を実施

ソリューションを社会実装につなげる 磨き込みプログラム

オープンブリッジ
Open Bridge

プラットフォームのネットワークや知見を活かし、ユーザーヒアリングや仮説検証を通じて、ソリューションの事業化・社会実装に向けた磨き込みを伴走型で支援

事業化・社会実装 プログラム

企業が自ら設定した課題に対する 検証を支援

実証実験・試作開発支援

企業が自ら設定した、防災・減災および気候変動対策の課題に対して、有用性やアイデアの事業化に向けた実現性検証に係る費用を支援

海外展開支援 プログラム

海外展開にむけた第一歩を支援

ステップアブロード
Step Abroad!

海外展開に向けて、現地とのネットワークを持つ専門家が、現地の実態やリアルな声に基づいた仮説検証を支援

* その他、過去の採択企業に対して事業化に向けた継続支援も行っています。

2026年度 イベント概要

情報発信 ／交流イベント

仙台BOSAI-TECH
カンファレンス

防災分野に関心の高い企業・研究機関・自治体が集結。
BOSAI-TECHの最新事例の紹介やマッチング機会を提供するオンラインイベント。

仙台BOSAI-TECH
Lounge (ラウンジ)

BOSAI-TECHに関心のある方々の交流を目的としたセミナーや座談会など、
様々な形での単発イベントを開催。

事例紹介

－ 仙台BOSAI-TECH参画事業者の取組

事例紹介 | 3D都市モデル・空間再現

鹿島建設株式会社

仙台市の3D都市モデルの防災分野で利活用

仙台市太白区長町エリアを対象に、3D都市モデル「PLATEAU」を活用してメタバース空間を制作。スマートフォンやVR等で洪水時の水位上昇をリアルに再現し、車いす利用者をはじめとする要配慮者視点での避難の困難さ（歩きにくさや段差の危険性等）を体験する仕組みを構築



2025年度 事業化・社会実装プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-348.html>

株式会社XMAT

ガウシアンスプラッティング法を応用した防災デジタルツイン実証

仙台市松森工場を対象に、360°カメラの映像からガウシアンスプラッティング法を用いて3D空間データを生成。工場内の配管や設備の配置状況を高い精度で再現し、現況をそのまま共有できる情報基盤を制作



2025年度 事業化・社会実装プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-345.html>

事例紹介 | 情報伝達・非常電源

株式会社NTTデータ東北

同報系情報提供システムに関する新規通信方式

災害時に携帯電話回線が途絶した場合でも、既存の地上デジタル放送の帯域（IPDC）を利用し、災害本部等から避難情報を一斉配信する仕組みを検証。導入に向けた課題整理のためのワークショップを実施。



2025年度 事業化・社会実装プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-349.html>

AZUL Energy株式会社

災害時に利用可能なハイブリッド空気電池システムの開発

既存の蓄電池が抱える容量不足や高コストといった課題に対し、触媒技術を応用した「亜鉛空気電池（Ferion®）」と、出力の安定した「鉛蓄電池」を組み合わせたハイブリッド電源システムを開発。



2025年度 事業化・社会実装プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-351.html>

事例紹介 | 災害リスクの可視化

ESRIジャパン株式会社

航空写真を用いた太陽光発電施設の状況把握と災害発生リスクの抽出

仙台市が保有する航空写真と、ArcGISプラットフォーム上のGeoAIを組み合わせ、太陽光パネルを自動で検出。土砂災害警戒区域等のハザードマップと重ね合わせ、危険度の高い施設を抽出するWebアプリを開発。



2025年度 事業化・社会実装プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-346.html>

事例紹介 | 防災教育

株式会社宮城テレビ放送

< 2024年度の取り組み >

小中学校における実践的な防災教育の取り組み

学校の教員が繁忙であり、防災教育に多くの時間を割くことができない教育現場の課題と、児童・生徒が居住する地域の災害リスクを踏まえた、実践的な防災教育の実現を目指し、映像を活用した防災教材の開発を実施。



2024年度 試作開発支援プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-285.html>

< 2025年度の取り組み >

映像を活用した防災教育教材の実証実験

同社が開発した「映像を活用した防災教育教材」を用いて、指導書を作成。実際の教育現場での活用を目指し、仙台市内の児童館および小学校にて実証実験を実施。



2025年度 事業化・社会実装プログラムにて実施
成果報告書はこちら：<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-350.html>

事業創出プログラム – Future Awards

仙台BOSAI-TECH Future Awardsとは？

仙台BOSAI-TECH Future Awards ～テクノロジーで明日を守る課題探求プログラム～

Future Awardsとは？

- **自治体**が提示する**課題の解決**を目指し、**アイデアの有用性**や**事業化に向けた実現性**の検証を行うプログラムです。
- 採択となった場合は、実証実験等にかかる費用を**最大100万円支援**します。
※企業規模や拠点の所在地により、支援額条件は異なります。

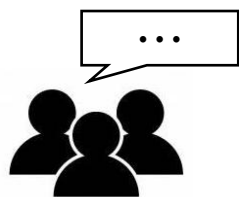
参加対象

日本国内の法人

仙台BOSAI-TECH Future Awards 実施概要

◆本プログラムは、自治体が抱える課題を知り、解決のためのアイデア・ソリューションを提案し、実証実験を行うプログラムです。

課題を知る



➤ 説明会（本日）

仙台市の防災関連課題を12件提示します。



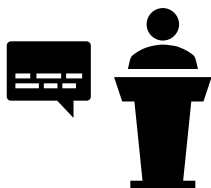
➤ 現場視察

7月28日、8月6日

自治体担当者が同行し、課題への理解を深めるため、現場視察を実施します。

アイデア・ソリューションの提案

➤ 提示した12件の課題に対して、課題解決のための実証実験の提案を募集します。



申込締切：8月21日

＜費用支援額＞

- 東北に拠点をもち中堅・中小企業：最大100万円
- 上記以外：最大50万円

実証実験の実施

➤ 課題を提示した担当課と一緒に、実証実験を実施します。

実施期間：10月～2027年2月

※課題詳細は次ページ参照。

※成果報告書に対して、支援費用をお支払いします。

仙台BOSAI-TECH Future Awards 自治体提示課題一覧

◆今年度、仙台市では以下12件の課題を解決する提案を募集しています。

★：今年度新規掲載課題

【防災・減災】

視察あり

- ★ 発災時の仙台駅周辺における帰宅困難者の一時滞在場所への案内・誘導
- 新たな通信技術を活用した同報系情報提供システムの実現
- 指定避難所（学校施設等）における停電時のマンホールトイレ暖房
- 小中学校における実践的な防災教育の取り組み
- 3D都市モデルの防災分野における利活用

※課題詳細は、プラットフォームウェブサイトからご覧いただけます。
https://sendai-bosai-tech.jp/event/future_awards/fa2026#kadai

【気候変動対策・脱炭素】

視察あり

- ★ 資源循環の高度化に向けた缶・びん・ペットボトル等のAI選別技術
- ★ 建築物のZEB化促進に向けたBEI算定業務の効率化
- ★ 指定避難所におけるリアルタイムな電力需給予測と最適配分の実現
- ★ クマ出没に関する市民からの多数の情報提供への対応と情報発信を両立させる運用の実現
- ★ 山林・河川から市街地へのクマの侵入抑止
- ★ 脱炭素社会の実現に向けた市民の環境配慮行動の促進
- ★ 3D都市モデルの環境分野における利活用

現場視察＃1 | 仙台駅周辺の一時滞在場所

◆第1回は、「発災時の仙台駅周辺における帰宅困難者の一時滞在場所への案内・誘導」をテーマにJR仙台駅周辺の一時滞在場所の視察を実施します。

日程	2026年7月28日(火) 13:00～15:30 (予定)
場所	JR仙台駅周辺
視察内容	● イン트로ダクション ● 一次滞在場所の視察 ➢ JR仙台駅コンコース ➢ アーバンネット仙台中央ビル ● 質疑応答／意見交換会 ● 名刺交換会



＼ お申込みはこちら ／



7月22日（水）申込締切

現場視察＃2 | 資源化センター（仙台市内）

◆第2回は、「資源循環の高度化に向けた缶・びん・ペットボトル等のAI選別技術」をテーマに仙台市内の資源化センターを視察します。

日程	2026年8月6日(木) 13:30～17:00 (予定)
場所	資源化センター（仙台市内）
視察内容	● イン트로ダクション ● 資源化センター視察 ● 質疑応答／意見交換会 ● 名刺交換会
備考	当日はバスによる移動を予定しています。



＼ お申込みはこちら ／



7月30日（木）申込締切

参加要件

- ・ 防災関連（気候変動対策・脱炭素含む）課題を解決する事業創出に意欲のある方
※法人・個人は問いません。

エントリー案内

- ・ BOSAI-TECHウェブサイトのエントリーフォームより、ご応募ください。
- ・ エントリー時は、参加動機等をフォームよりご記載ください。
※応募多数の場合は、エントリー内容をもとに総合的に参加者を選考します。

その他

- ・ **参加費無料**
- ・ プログラム参加に要する交通費、通信費、その他費用はご自身でご負担ください。

仙台BOSAI-TECH Future Awards 自治体課題への提案の流れ

◆自治体課題の解決を目指し、提案を希望される方は、まずは事前相談へお申込みください。

事前相談 (必須)

実証実験のテーマや計画のご相談などが可能です。

8月21日 まで

本申込 ※企画提案書提出

実証実験の計画等を記載した企画提案書を提出いただきます。

8月28日 まで

実証実験

採択となった事業者は、企画提案書に基づき、課題提示自治体とも調整のうえ、実証実験を進めていただきます。

**10月下旬～
2027年1月**

成果報告書

成果報告書を作成・提出いただきます。

2027年2月末

自治体課題への提案に対する参加要件と支援内容

参加要件

- ・ 防災関連の課題解決を目的とする事業に取り組む意欲のある法人
- ・ 課題解決に資するアイデアおよび製品・サービスを有すること
- ・ 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームに会員登録できること

※詳細は、応募要項をご参照ください。

支援内容

- ・ 採択となった事業者には、審査基準に則り、費用支援を行います。
支援上限額は拠点の所在地によって、下記条件となります。
 - ・ 東北に事業拠点がある中堅・中小企業の場合は、最大100万円の支援を行います。
 - ・ それ以外の場合は、最大50万円の支援を行います。

◆ 仙台市職員より課題の詳細をご説明いたします。

【防災・減災】

視察あり

★ 発災時の仙台駅周辺における帰宅困難者の一時滞在場所
への案内・誘導

- 新たな通信技術を活用した同報系情報提供システムの実現
- 指定避難所（学校施設等）における停電時のマンホール
トイレ暖房
- 小中学校における実践的な防災教育の取り組み
- 3D都市モデルの防災分野における利活用

※課題詳細は、プラットフォームウェブサイトからご覧いただけます。
https://sendai-bosai-tech.jp/event/future_awards/fa2026#kadai

【気候変動対策・脱炭素】

視察あり

- ★ 資源循環の高度化に向けた缶・びん・ペットボトル等のAI選別技術
- ★ 建築物のZEB化促進に向けたBEI算定業務の効率化
- ★ 指定避難所におけるリアルタイムな電力需給予測と最適配分の実現
- ★ クマ出没に関する市民からの多数の情報提供への対応と情報発信
を両立させる運用の実現
- ★ 山林・河川から市街地へのクマの侵入抑止
- ★ 脱炭素社会の実現に向けた市民の環境配慮行動の促進
- ★ 3D都市モデルの環境分野における利活用

発災時の仙台駅周辺における帰宅困難者の一時滞在場所への案内・誘導

<課題の背景>

- 大規模災害時に帰宅困難者が発生した場合には、いわゆる避難所とは別の一時滞在場所へ誘導する仕組みとなっている。
- 現状では、仙台駅横のバスプール等にいる多くの滞留者に対し、数名のスタッフにより整理・誘導し、滞在場所に案内することとなっているが、現実的に困難と考えられる。

<実現したいこと>

- 大規模災害時に仙台駅周辺にいる帰宅困難者が直接的な案内や誘導なしに、自身で一時避難先の場所を把握し、移動できる状態にしたい。
- スマートフォン等を用いて、帰宅困難者自らが滞在先施設を予約し、直接向かうシステムを、コストをなるべくかけない形で導入できないか検討したい。

<想定している技術>

- k i n t o n e 及び関連プラグインを用いた試作版を本市において作成済みであるため、基本的にはそれに準ずる性能を想定する。
- 具体的には、①帰宅困難者による施設予約、②施設側による開設可否等の入力管理、③市や交通機関本部におけるデータ管理など。
※現在、本市において試作したシステムでは、A P I リクエスト数の制限等の課題があることから、本検討ではこれをクリアした形で導入したい。
- 可能であれば、多言語化や帰宅困難者への情報発信機能（交通状況等）も加えたい。

発災時の仙台駅周辺における帰宅困難者の一時滞在場所への案内・誘導

<希望する実証時期・実証場所>

- 令和8年10月下旬頃、仙台市内での実証を希望する。

<その他>

(1) その他制約事項

- 災害時の多数アクセスを想定し、十分な可用性・拡張性・セキュリティを備えたクラウド環境上（AWSなど）で構築・運用できること。
ただし、同等の可用性・拡張性・セキュリティを確保できる他の環境による提案も可とする。

(2) 補足事項

- 帰宅困難者対策ホームページ

<https://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/torikumi/kitaku.html>

資源循環の高度化に向けた缶・びん・ペットボトル等のAI選別技術

<課題の背景>

- ・ 仙台市では、さらなるリサイクルの推進と持続可能な循環型社会の形成を目指している。
- ・ 缶・びん・ペットボトルなどの資源物は、リサイクル原料として再資源化するために選別施設にて主に手作業により分別しており、人口減少社会における労働力の確保が課題となっている。

<実現したいこと>

- ・ 缶・びん・ペットボトルの選別作業をAIや最新のセンサー技術等を活用し、自動選別できる仕組みの導入可能性を検討したい。

<想定している技術>

- ・ 缶・びん・ペットボトルについて、種類ごとに高度な選別を行うシステムを構築したい。
- ・ 具体的には、容器内部の中身の有無や、びんの色などを判別し、適切に選別できるようにすることを目指す。
- ・ なお、アルミ缶とスチール缶の選別には、磁力選別を導入済みである。

<希望する実証時期・実証場所>

- ・ 令和8年10月～令和9年1月（年末年始を除く）。

<その他>

- ・ 松森資源化センター パンフレット
(<https://www.city.sendai.jp/shigenkasuishin/kurashi/shisetsu/kokyo/shiyakusho/kankyo-recycle/documents/r604matsumorishigenka.pdf>)

建築物のZEB化促進に向けたBEI算定業務の効率化

<課題の背景>

- ZEB認証を取得するためには、国の評価基準であるBEI（省エネルギー性能指標）の算定が必要となり、設計者への作業負担が極めて大きいことが課題となっている。
- 特に、地元の中小設計事務所にとっては、BEIの算定に伴う、手作業による転記や算定プロセスの習得が大きな障壁となっており、設計コストの増大や、地元主導でのZEB設計・改修推進のボトルネックとなっている。

<実現したいこと>

- 地元の設計事務所等が、高度な専門知識やコストをかけずに、BEI算定を行える入力アシストの仕組みを作りたい。
- 具体的には、設計図面をスキャンすることで、室名称、面積、設備仕様、外皮性能値等の情報を自動的に読み取り、BEI算定用の計算プログラムへ自動入力するなどの機能があると良い。

<想定している技術>

- 担当者のデスク等で図面などを閲覧しながら使用すること想定しているが、技術については特にこだわらない。

<希望する実証時期・実証場所>

- 令和9年1月末までに市有施設のZEB認証取得済み・認証取得予定の施設の図面を活用した実証を希望する。

指定避難所におけるリアルタイムな電力需給予測と最適配分の実現

<課題の背景>

- 仙台市では、市内の指定避難所等へ防災対応型太陽光発電システムを設置しており、発災時に停電が生じた場合も照明やコンセント等の利用ができる。
- しかし、発災時の気象条件や避難者数によって、避難所ごとのエネルギー需要や供給が変動するため、電力の供給可能時間や不足量をリアルタイムに把握することが難しい。
- また、現在の太陽光発電システムのみでは、空調など避難所機能の高度化が求められる一方、現在の設備のみでは必要な電力の確保が難しい。

<実現したいこと>

- 発災時に、気象条件や避難者数等をもとに、避難所ごとのエネルギー需要量と供給量推定したい。
- 例えば、可搬型V2L×EV（公用車）や大容量蓄電池など活用し、エネルギー不足が見込まれる避難所には、機動的かつ効率的に電力の補給を行いたい。
- 上記により、太陽光・蓄電池・EV電力を最適に配分したい。

<想定している技術>

- 特にこだわるものはないが、災害時にリアルタイムで情報を把握するため、スマートフォンやPCなど様々なモバイル端末で利用できるものが良い。

<希望する実証時期・実証場所>

- 令和9年1月末までに、仙台市内の会議室や指定避難所等での実証を希望する。

クマ出没に関する市民からの多数の情報提供への対応と情報発信を両立させる運用の実現

<課題の背景>

- クマの目撃情報には正確なものが含まれる一方、誤認や伝聞による通報等、信ぴょう性の判断が難しい情報も一定程度含まれている。
- 現在は、通報を受けた後、現地確認、関係機関との連絡調整、住民への注意喚起等を実施しているが、その多くが電話・FAXを中心とした対応であり、24時間体制での対応により職員への負担が非常に大きい。
- また、クマの目撃後に「いなくなった」と断定することは困難であり、警戒の解除時期や情報発信の判断に課題がある。
- 警察・県・区役所等、多くの関係機関が関与するが、情報共有や対応フローが標準化されておらず、属人的な運用となりやすい。

<実現したいこと>

- 現在は電話を中心とした通報となっているが、通報情報（位置、時刻、状況等）を整理・標準化し、信ぴょう性を含めて扱える仕組みを構築したい。
- 通報を起点として、現地確認の要否・優先度判断、注意喚起の範囲・内容、警戒解除の判断といった一連の意思決定を支援する仕組みを構築したい。
- 警察・県・区役所等の関係機関との間で、情報共有の標準化および連携の効率化を図り、迅速かつ確実な対応を実現したい。
- 現地確認においては、危険な場所への立ち入りを最小化するため、遠隔確認等の活用により安全性を高めることが望ましい。
- 上記を通じて、対応の迅速化・精度向上と職員の負担軽減との両立を図りたい。

クマ出没に関する市民からの多数の情報提供への対応と情報発信を両立させる運用の実現

<想定している技術>

- 通報情報の整理・共有・可視化技術
- 信ぴょう性評価や意思決定支援に資するデータ処理・分析技術
- 遠隔確認（カメラ、センサー等）を活用した現地確認支援
- 関係機関連携を支援する情報共有基盤

※上記に限定するものではない

<希望する実証時期・実証場所>

- 実証時期：令和8年9月～令和9年1月末（実運用に近い環境での通報対応を通じて検証）
- 実証場所：市内全域
- 想定関係機関：警察、県、区役所、小中学校、幼稚園・保育園、町内会等

<その他>

- 現在の通報は電話が中心であり、その運用を前提とした設計が必要である。
- クマの不在を完全に証明することは困難であり、解除判断はリスク評価に基づくものとなる。
- 実装にあたっては、現場職員が継続的に運用可能なシンプルさ・実用性が求められる。

山林・河川から市街地へのクマの侵入抑止

<課題の背景>

- 仙台市では、近年クマの出没件数が増加しており、河川を渡って市街地へ侵入する個体や、住宅地に隣接する山林から出没する事例が確認され、市民生活への影響が大きくなっている。
- 藪の刈払い、放任果樹の管理、電気柵の設置等の侵入防止対策を進めているが、地形や樹木の状況、対象範囲の広さ等から、市内全域に一律の対策を講じることは困難である。
- 特に山林や河川に隣接する地域では、侵入経路が限定される一方で、電気柵の設置難しいことや環境条件による制約が存在し、有効な対策の適用範囲が限られる状況にある。
- また、AIカメラや各種センサー等の技術活用も想定されるが、電源確保、通信環境、誤検知、夜間・悪天候時の性能、維持管理コスト、地権者調整等の観点から、実装段階での課題が顕在化しやすい。

<実現したいこと>

- 市内全域に一律の対策を講じることが困難であることを前提に、山林・河川等から市街地に侵入する「経路」に着目し、重点的かつ効果的な侵入抑止対策を行いたい。
- 現場条件（地形、樹木、電源、通信、地権者調整等）を踏まえた上で、恒常的に運用可能で、持続性のある対策であることを重視する。
- 単なる抑止の有効性にとどまらず、設置性、維持管理性、コスト、耐候性（冬季環境含む）等を含めて総合的に評価可能な仕組みとしたい。
- 対策の効果について、重点区域における侵入兆候や出没状況の変化等により検証できることが望ましい。

山林・河川から市街地へのクマの侵入抑止

＜想定している技術＞

- クマの侵入経路を特定・検知するためのセンシング技術（カメラ、各種センサー等）
- 地形条件に応じて展開可能な侵入抑止手法（物理的抑止、誘導・回避行動を促す仕組み等）
- 低電力・耐候・通信確保等を考慮した実装技術

※上記に限定するものではなく、現場において実装可能な技術提案を広く求める。

＜希望する実証時期・実証場所＞

- 実証時期：令和8年9月～令和9年1月末（クマ出没が多い時期から冬季までを含め、効果および運用性を検証） 令和8年は凶作ではない予想であり、秋口の懸念は昨年度のように高くはなく、出没が確実に多い夏季から利用できるとよい。
- 実証場所：山林または河川から市街地に隣接する区域

＜その他＞

- クマの捕獲等は、法令や許認可を踏まえた対応が前提となる。
- 設置物については地権者の同意が必要となる場合がある。
- 電源・通信環境、維持管理体制、コスト等を含め、継続的な運用が可能であることが重要である。

脱炭素社会の実現に向けた市民の環境配慮行動の促進

<課題の背景>

- ゼロカーボン社会の実現に向けては、産業、業務、家庭などあらゆる部門における脱炭素化が必要であるが、家庭における取り組みを進めるためには、市民一人ひとりが環境・脱炭素の理解及び意識の涵養を図っていくことが求められている。
- 市民の環境配慮行動を促進するため、本市ではホームページ等を通じて省エネ行動の実践を呼びかけているが、実際の行動につながっているか、行動によるCO2削減量を定量的に把握できていない。
- 環境配慮行動の効果を可視化し、市民自身がそのことを実感できる仕組みを構築することも必要である。

<実現したいこと>

- 日常的な環境配慮行動（省エネ・省資源行動等）の定着を促進し、利用者が継続的に取り組むことができる仕組み（例：ミッション形式・達成度の見える化等）を用意したい。
- 市民が楽しみながら継続して環境配慮行動の取り組みや環境学習ができる、ゲーム性やインセンティブ付与の要素を取り入れたアプリケーション等のツールがあるとよい。
- アプリケーション等のツールにおいて、例えば、取り組んだ環境配慮行動によるCO2削減効果や目標に対する達成状況を明示することで、温暖化対策や省エネ行動に対する貢献の度合いを実感できるとよい。

<想定している技術>

- スマートフォンでの利用を前提としたアプリケーション等のツールを想定しているが、同等の機能が実現可能であれば技術手法は問わない。

脱炭素社会の実現に向けた市民の環境配慮行動の促進

＜希望する実証時期・実証場所＞

- 令和8年度中、仙台市内会議室等でのデモンストレーションおよび試験運用を希望する。

※実証でユーザーのレビューを受け、改善するまでを今年度中の目標とする。

＜その他＞

- 事業実施にあたっては、提案事業者と課題提案課との間で、ツール等の内容や実証に向けた準備に関する打合せ・調整を行うこと。

事業創出プログラム – Open Bridge

仙台BOSAI-TECH Open Bridgeとは？

仙台BOSAI-TECH Open Bridge ～ソリューションを社会実装につなげる磨き込みプログラム～

Open Bridgeとは

- 防災関連ソリューションの**事業化・社会実装を目指す企業**を、BOSAI-TECHに長年携わる**コンサルタントが伴走型で支援**するプログラムです。
- プラットフォームの**知見とネットワーク**を活かし、**事務局との仮説整理**や**自治体・企業への現場ヒアリング／マッチング等**を通じて、社会実装に向けた**ソリューションの磨き込み**を支援します。

対象

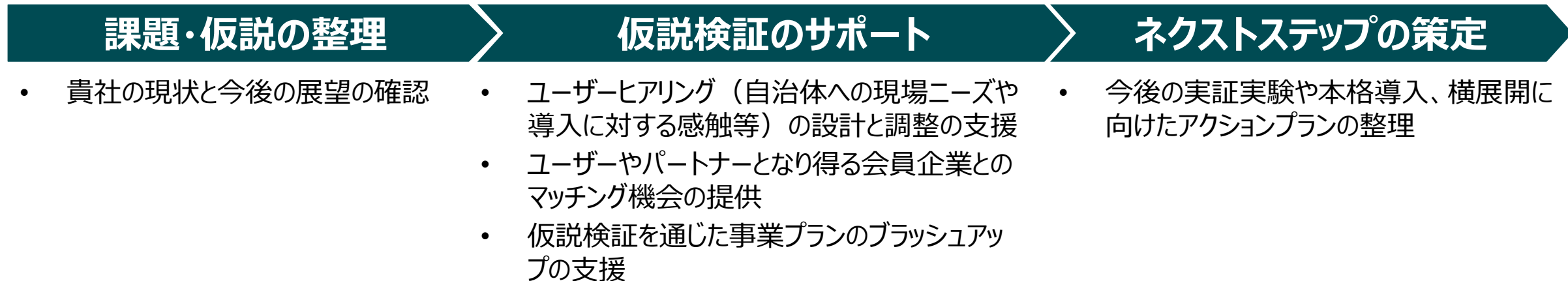
東北6県に拠点を持つ中堅・中小企業

◆本プログラムは、課題・仮説を整理しながら、その検証をサポートし、社会実装に向けたネクストステップの策定を支援するプログラムです。

➤ 次のような方におすすめ

- 具体的なアイデアがあり、試作開発を進めたい。
- 自治体をはじめとする現場ユーザーのニーズを把握したい。
- 実証後の本格導入や横展開を進めたい。

➤ 支援の進め方



※支援内容は、申込内容や企業様の状況に応じて決定し、意見交換やディスカッションを中心とした対話型で実施します。

仙台BOSAI-TECH Open Bridge プログラムの流れ

◆本プログラムの流れは、以下の通りです。

エントリー

BOSAI-TECHウェブサイトより、ソリューション概要や事業化・社会実装に向けた検討状況を記載のうえ、お申込みください。

8月28日 まで

選考／支援内容決定

エントリー内容をもとに、個別の支援内容を検討のうえ、事務局にて選考いたします。

9月中旬

選考結果通知

事務局よりメールにて選考結果をお知らせいたします。

9月下旬～

個別支援

隔週～月1回程度の打ち合わせを通じて、社会実装に向けたソリューションの磨き込みを支援します。

**10月～
2027年2月末**

仙台BOSAI-TECH Open Bridge 参加要件

参加要件

- 東北6県に事業拠点をもち中堅・中小企業であること
- 次の領域の課題解決を目的とする事業に取り組む意欲があること
なお、以下のいずれかの領域であること
 - ✓ 防災・減災
 - ✓ 気候変動対策・脱炭素
- 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームに会員登録できること

※詳細は、応募要項をご参照ください。

現在開発中のアイデアやリリース直後のソリューションなどでも応募可能です。

選考に関して

本プログラムは、当プラットフォームの会員ネットワークや知見を活かした支援を行います。
そのため、応募企業の個別課題や支援ニーズと、当プラットフォームが提供可能な支援内容も考慮したうえで、総合的に選考をいたします。

事業化・社会実装プログラム

－ 実証実験・試作開発支援

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラムとは？

企業が自ら設定した課題に対する 実証実験や試作開発を支援するプログラム

防災関連のアイデア・ソリューションの実用化に向けた
実証実験や試作開発に係る費用を **最大100万円** 支援いたします。

想定している仮説が正しいか
検証したい

試作品開発を通じて、
実現可能性を検証したい

実証実験を通じて、
想定ユーザーと共に
有用性を検証したい

上記のような検証で
防災関連の事業開発を目指す企業の応募をお待ちしております。

仙台BOSAI-TECH 実証実験・試作開発支援 参加要件

参加要件

- ・ 防災関連（気候変動対策・脱炭素含む）課題の解決を目的とした事業に取り組む意欲のある中堅・中小企業
- ・ 東北6県に事業拠点をもつ法人であること
もしくは、東北6県に事業拠点を持つ中堅・中小企業との共同提案であること
- ・ テクノロジーを活用した製品・サービスを有すること。なお、以下のいずれかの領域であること
 - ✓ 防災・減災に応用可能性があるもの
 - ✓ 気候変動対策・脱炭素の課題解決に貢献し、なおかつ将来の防災・減災に資するもの
- ・ 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームに会員登録できること

※詳細は、応募要項をご参照ください。

支援内容

上記の参加要件を満たした企業に対し、最大100万円の費用支援を行います。

仙台BOSAI-TECH 実証実験・試作開発支援 プログラムの流れ

事前相談 (必須)

実証実験のテーマやユーザー、試作品アイデアに関するご相談も可能です。

7月24日 まで

本申込 ※企画提案書提出

事業プランの概要・実証実験・試作開発の計画等を記載した企画提案書を提出いただきます。

7月31日 まで

実証実験・試作開発

採択となった事業者は、企画提案書に基づき、主体的に実証実験・試作開発を進めていただきます。

9月～
2027年1月

成果報告書

成果報告書を作成・提出いただきます。

2027年2月末

過去の取り組み事例の検索

NEWS & REPORT

NEWS&REPORTページで事例の項目をクリック

主要なイベント

☐ BOSAI-TECH事業創出プログラム

☐ Global Innovation Program

☐ 実証実験/試作開発支援プログラム

☐ BOSAI-TECH カンファレンス

☐ 仙台BOSAI-TECH Lounge

☐ 海外展開支援プログラム

すべて チェック / 解除

コンテンツ

☐ プラットフォーム紹介

☒ 事例 | 試作開発

☒ 事例 | 実証実験

☒ 事例 | 社会実装

☐ インタビュー

☐ ソリューション

☐ 防災課題

☐ Future Awards

☐ Open Bridge

☐ メディア掲載

☐ その他

すべて チェック / 解除

フリーワード

更に絞り込む

検索

事例 | 実証実験

無人ヘリコプター × 衛星通信 による迅速な災害状況把握【株式会社 J DRONE】

仙台BOSAI-TECH事業創出プログラム Future Awards 2023において、株式会社 J DRONE が、衛星通信機を搭載した無人ヘリコプターを開発し、山形県など災害が頻発する地域の点検などの活用に向けて、検証を行いました。成果報告書をダウンロード 1、概要と課題・防災拠点設置のための活...

2024.03.19

株式会社 J DRONE | BOSAI-TECH事業創出プログラム

事例 | 実証実験

VR津波避難シミュレーターの試作開発と試験展示 〜あなたの避難体験が安全な街づくりのヒントに〜【Tsunami Balloon】

実証実験/試作開発支援プログラムにおいて、Tsunami Balloon が、VR津波避難シミュレーターを津波リスクのコミュニケーションツールとして用いることで、防災の設計者と当事者が一体となって安全な街づくりを目指し、検証を行いました。成果報告書をダウンロード 1、概要と課題・難民支援の取...

2024.03.19

Tsunami Balloon | AR、VR、MR | 実証実験/試作開発支援プログラム

事例 | 実証実験

災害情報把握と地域連携に関する検証【株式会社アップリーチ】

仙台BOSAI-TECH事業創出プログラム Future Awards 2023において、株式会社アップリーチが、スマホアプリを活用して、市役所と町内会役員で双方向の情報伝達や、町内会内での情報共有を行うための検証を行いました。成果報告書をダウンロード 1、概要と課題・解決を目指す課題・災害時、自治体...

2024.03.19

株式会社アップリーチ | 多言語通訳 | コンシューマー向けソフトウェア | BOSAI-TECH事業創出プログラム

事例 | 実証実験

ウェアラブルカメラ活用 農業施設監視ソリューションに関する検証【アンデックス株式会社】

仙台BOSAI-TECH事業創出プログラム Future Awards 2023において、アンデックス株式会社は、衛星インターネットとウェアラブルカメラを利用して、稲穂成長を確認する際にも地域の状況を監視し、共有できることを目指し、検証を行いました。成果報告書をダウンロード 1、概要と課題・課題・仙...

2024.03.19

アンデックス株式会社 | BOSAI-TECH事業創出プログラム

事例 | 実証実験

「NewsDigest」「FASTALERT」を活用した市民参加型の被害状況把握に関する実証実験【JX通信社×多賀城市】

2023年11月11日に、「NewsDigest」を使って地域住民から情報提供された被害状況実証を多賀城市職員が「FASTALERT」を使って迅速・適切に把握する実証を行うとともに、災害時の市民の積極的な参画、対応を高めることを狙いとした防災訓練を実施します。詳細は下記よりご覧ください。http...

2023.11.07

株式会社JX通信社 | 多賀城市 | AI、機械学習 | 3D技術、地図・空間情報 | コンシューマー向けソフトウェア | エンタープライズ向けソフトウェア

事例 | 実証実験

リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用した地域防災力向上・地域活性化に向けた取組み

実証実験サポートプログラム2022年第2期において、株式会社JX通信社が、「いつ・どこで・何」が発生しているかを迅速に把握し、迅速かつ適切な災害対応を遂行するために、リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用し、公助の負担軽減と地域の防災・減災力を高め...

2023.03.22

株式会社JX通信社 | AI、機械学習 | コンシューマー向けソフトウェア | エンタープライズ向けソフトウェア | データ解析 | 実証実験/試作開発支援プログラム

事例 | 実証実験

バルーンを用いた指定緊急避難場所への避難誘導の検証

実証実験サポートプログラム2022年第2期において、Tsunami Balloon（東北大学大学院 工学部 防災学 成田成之輔）が、津波発生時の指定緊急避難場所への誘導を目的とし、避難民の方向や距離を直観的に把握するための情報提供として、専用バルーンの活用を目指し、検証を行いました。成果報...

過去の実証実験や試作開発の事例は、
仙台BOSAI-TECHサイトにてご覧いただけます。

海外展開支援プログラム

仙台BOSAI-TECH 海外展開支援プログラムとは？

海外展開に向けた第一歩を支援

～ Step Abroad ! ～

防災・災害対策の技術・経験を海外へ！

海外展開支援プログラム「Step Abroad!」とは

- 防災関連ソリューションの**海外展開に関心がある企業**や、**海外で事業展開したい企業**をサポートする個別相談プログラムです。
- 海外展開に向けて、**現地とのネットワークを持つ専門家**が、**現地の実態やリアルな声**に基づいた仮説検証を支援します。

対象

東北6県に拠点を持つ中堅・中小企業

実施要領

- 支援内容は、申込内容や企業様の状況に応じて決定します。
- ご支援は、**専門家によるオンラインでのヒアリング・ディスカッション**を主とした対話型で実施します。
- 期間は、**10月頃から2027年1月まで、月1回程度**を目安に実施します。

支援の進め方（想定）

- **現状・仮説のヒアリング**
 - 貴社の現状と今後の展望の確認、仮説の整理
- 海外展開を目指す地域に関する**デスクリサーチ**
 - 必要な情報の整理、統計や調査データの収集
 - 調査結果をもとにしたディスカッション
- 海外展開を目指す**現地ユーザのニーズ把握**
 - 現地ユーザリサーチ実施方針の検討
 - ユーザリサーチの計画と実施

※対象地域、事業内容によっては、現地ユーザと直接おつなぎできる場合があります。

仙台BOSAI-TECH 海外展開支援プログラム プログラムの流れ

エントリー案内

- **8月28日(金) 17:00までに**
BOSAI-TECHウェブサイトの[エントリーフォーム](#)よりお申込みください。
※お申し込み内容をもとに、事務局にて審査を行います。
※お申込み後、事務局からヒアリングのご案内をさせていただく場合があります。

エントリーから 支援までの流れ

ウェブサイトからのお申込



※お申し込み内容の確認のため、
ヒアリングを実施する場合があります。

仙台BOSAI-TECH イベントのご案内

Lounge（ラウンジ） | 2025年度 実施イベント

2025年度の活動実績

開催月	タイトル	内容
2025年 11月	【交流会】 BOSAI-TECH交流会 in 東京	自治体の最新の防災分野での取り組み事例を紹介いただき、 防災に関する知見を深める、BOSAI-TECH初の東京開催イベント。 登壇者：大阪市港区長、熊本市政策局 危機管理防災部 防災計画課
2026年 3月	【交流会】 BOSAI-TECH交流会 in 仙台	2025年度プログラム参加企業より取り組み事例を紹介いただき、 BOSAI-TECHの活動内容や関わり方への理解を深める交流イベント。 登壇者：AZUL Energy株式会社、株式会社NTTデータ東北、株式会社XMAT

Lounge（ラウンジ） | イベントの様子

BOSAI-TECHに関心のある方々の交流や情報収集の場として、交流会等を不定期で開催しています。

➤ BOSAI-TECH交流会 in 東京



➤ BOSAI-TECH交流会 in 仙台



Lounge（ラウンジ） | 開催予定のご案内

BOSAI-TECH交流会 in 仙台を7月16日（木）に開催します！

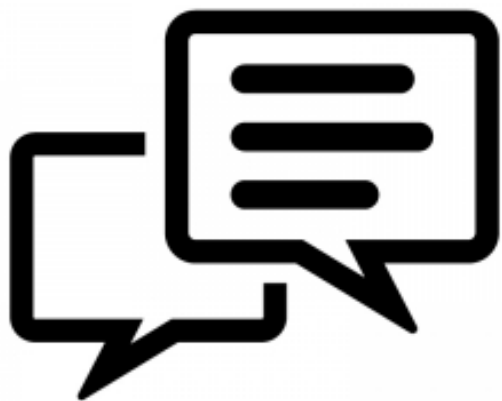
開催日程	2026年7月16日(木) 18:00～20:00
開催場所	WeWork JR仙台イーストゲートビル (宮城県仙台市宮城野区榴岡1-1-1 JR仙台イーストゲートビル 2F)
参加費用	無料（要事前申込）
アジェンダ	【第1部】 ➤ 会員企業様の取り組み紹介 ・ 鹿島建設株式会社 「地域を越えた共通課題への取り組み（仙台・つくば）」 ・ クオリティソフト株式会社 「上空からの音声で命を救う『アナウンサードローン』と、本社・和歌山県白浜町での取り組み」 ➤ 参加者の自社紹介 【第2部】 ➤ 参加者同士の自由交流（途中入退出自由）

＼ お申込みはこちら ／



7月10日（金）申込締切

質疑応答



本日ご紹介したプログラムや
当プラットフォームに関する
質問に回答します。

仙台BOSAI-TECHプラットフォームの参加方法

仙台BOSAI-TECHプラットフォームの参加方法

方法① ニュースレター購読

✉ News Letterのご案内

メールアドレスを登録すると、イベントなど最新情報が配信されます。（無料）

登録するメールアドレスを入力してください

☐ [個人情報の取り扱い](#)に同意する

購読する

方法② 一般会員への登録

プラットフォームへ
参画をご希望の方はこちら

仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームでは防災課題の解決に向けて、防災関連事業の創出に関心のある法人、自治体、研究機関の皆さまを幅広く募集しています。

会員登録に申し込む >



※どちらも費用は不要

一般会員の特典（一例） | 会員ページの作成

会員一覧ページ

MEMBERS

会員メニュー
(登録情報変更や退会申請の申込など)

防災領域で事業化を検討中の企業、防災ソリューションを取り入れたい自治体、テクノロジーをお持ちの企業・研究機関など、防災関連産業の創出に関心のある会員で本プラットフォームは構成されています。

一覧表示はこちら

種別 ☐ 民間企業 ☐ 自治体 ☐ 学術・研究機関 ☐ その他
すべてチェック / 解除

フリーワード

更に絞り込む

検索

検索結果: 177 件

IQGeo
日本
IQGeo Japan株式会社
弊社は現在、日本各地の電力配電企業や通信企業といったインフラ企業に災害対応のソリューションを提供しております。令和元年東日本台風被害からの復旧に活用される...

詳しく見る

AICREATE
日本
株式会社アイ・クリエイト
弊社は「WEB制作・アプリ開発・デジタルマーケティング」事業などを行っております。特にアナログ度の高い地方において、デジタルをどう使い地方創生や防災に活か...

詳しく見る

愛知県
日本
愛知県
当県では、2022年12月に策定予定の「革新事業創造戦略」において、防災・危機管理をイノベーション創出に向けて重点的に取り組むべき政策分野の一つとし、平常時の防災...

詳しく見る

会員一覧ページ：

<https://sendai-bosai-tech.jp/members/>

会員個別ページ

MEMBERS

会員メニュー
(登録情報変更や退会申請の申込など)

アンデックス株式会社
宮城県仙台市

担当者
代表取締役
三嶋 順 (みしま じゅん)

ウェブサイトにへ

担当者にメッセージを送る

テクノロジーを活用した効率的な避難所運営支援、地域BWAを活用した「AIカメラ」で避難所運営を効率化するシステムなどを開発しています。長年培ってきたITシステム開発力と通信事業での強みを活かし、日本だけでなく海外の災害や危機管理にも活用できる防災サービスの開発を目指しています。

【担当者にメッセージを送る】機能は、連絡先を非公開でその他の会員から、メッセージを受け付けることができます。
(メッセージの受付は任意選択)

会員個別ページ『（参考）アンデックス株』：

<https://sendai-bosai-tech.jp/members/detail/---id-3.html>

ソリューション記事の検索

NEWS & REPORTページ

NEWS & REPORT

主要なイベント

☐ BOSAI-TECH事業創出プログラム ☐ Global Innovation Program ☐ 実証実験/試作開発支援プログラム

☐ BOSAI-TECHカンファレンス ☐ 仙台BOSAI-TECH Lounge ☐ 海外展開支援プログラム

すべて [チェック](#) / [解除](#)

コンテンツ

☐ プラットフォーム紹介 ☐ 事例 | 実証実験 ☐ 事例 | 社会実装 ☐ インタビュー ☒ ソリューション

☐ 防災課題 ☐ Future Awards ☐ Open Bridge ☐ メディア掲載 ☐ その他

すべて [チェック](#) / [解除](#)

フリーワード

[更に絞り込む](#)

検索

検索結果：156 件

ソリューション

NEW

河川防災監視へ、IoT技術を活用し現地周辺環境を素早くキャッチできる『みるわん』【株式会社建設技術研究所】

河川状況・道路冠水監視に必要な観測機器をワンセットでご提供（株）建設技術研究所のIoT監視観測パッケージ『みるわん』なら、高感度監視カメラや水位観測で、現地の状況変化とその勢いまでを確実に捉えることができます。雨量計は5分毎、水位計と監視カメラは1分毎にデータ配信が可能です。水…

記事一覧ページ：

<https://sendai-bosai-tech.jp/news/>

WEBサイトに掲載された BOSAI-TECHソリューション

防災対策：応用

ソリューション

NEW

防災対策の強化に貢献する「地震対策」【株式会社】

防災対策の強化に貢献する「地震対策」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市青葉区青葉 | 仙台市青葉区青葉 | 仙台市青葉区青葉

ソリューション

NEW

仙台市でも市内でも、高感度な位置情報を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

仙台市でも市内でも、高感度な位置情報を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

防災対策：応用

ソリューション

NEW

防災対策の強化に貢献する「地震対策」【株式会社】

防災対策の強化に貢献する「地震対策」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市青葉区青葉 | 仙台市青葉区青葉 | 仙台市青葉区青葉

ソリューション

NEW

仙台市でも市内でも、高感度な位置情報を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

仙台市でも市内でも、高感度な位置情報を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

ソリューション

NEW

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

「高感度な位置情報」を利用した防災対策サービス「Flomack」【株式会社】

2023.03.24

株式会社建設技術研究所 | 仙台市、仙台市、仙台市、仙台市

仙台BOSAI-TECHプラットフォームの参加方法

方法① ニュースレター購読

✉ News Letterのご案内

メールアドレスを登録すると、イベントなど最新情報が配信されます。（無料）

登録するメールアドレスを入力してください

購読する

☐ [個人情報の取り扱い](#) に同意する

方法② 一般会員への登録

プラットフォームへ
参画をご希望の方はこちら

仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームでは防災課題の解決に向けて、防災関連事業の創出に関心のある法人、自治体、研究機関の皆さまを幅広く募集しています。

会員登録に申し込む >



※どちらも費用は不要

ぜひ、皆さまの申し込みをお待ちしております！

内閣府防災担当様からのご案内

「防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム」(防テクPF)の概要



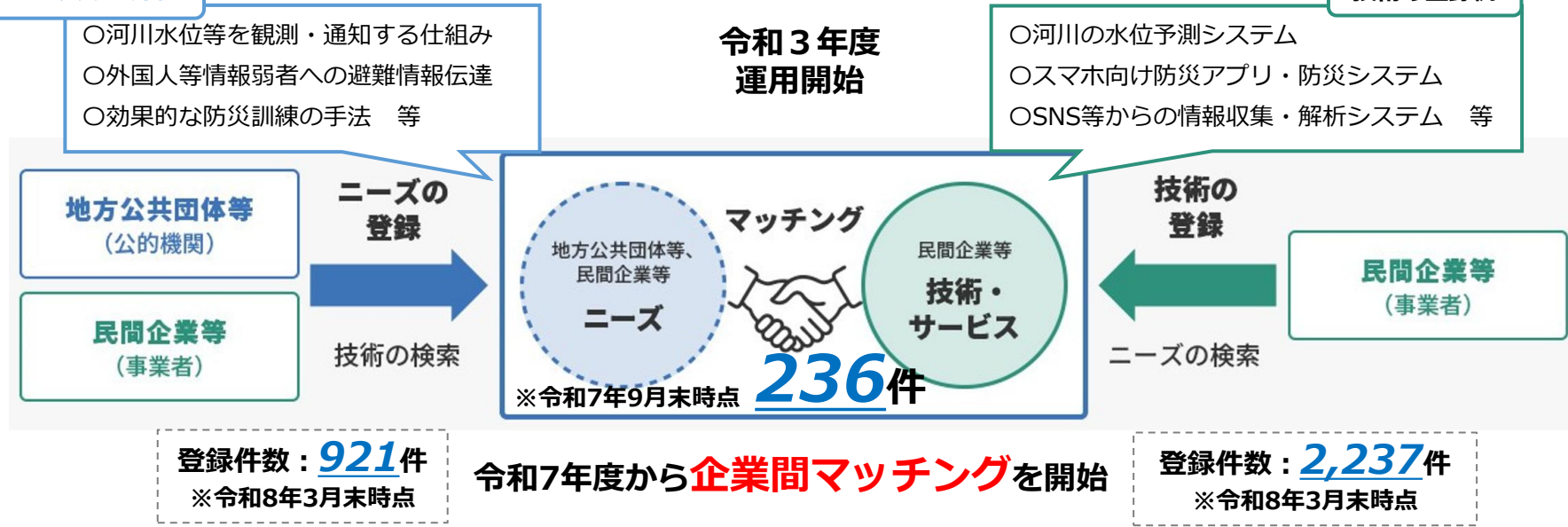
- 内閣府では、災害対応を行う地方公共団体等のニーズと、民間企業等が持つ先進技術・サービスのマッチング等を行う場として、**防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム**(防テクPF)を設置
- 地方公共団体がもつニーズと、企業がもつ技術・サービスのオンライン/現地でのマッチング等を支援

ニーズの登録例

- 河川水位等を観測・通知する仕組み
- 外国人等情報弱者への避難情報伝達
- 効果的な防災訓練の手法 等

技術の登録例

- 河川の水位予測システム
- スマホ向け防災アプリ・防災システム
- SNS等からの情報収集・解析システム 等



登録のメリット

- ① 様々なニーズ・技術を探索可能
- ② 最適なマッチングをサポート
- ③ 災害対応に有用な情報を収集可能

マッチングの効果

- ① 民間企業にとってはビジネスチャンスの拡大、地域防災への貢献
- ② 地方公共団体にとっては防災対策の効率化、防災課題の解決



自社の製品等をPR
できるアイデア展示



企業から様々な提案が
受けられる個別相談会



“防災を日常に”をテーマに、平常時も災害時も役立つ防災製品の展示会を開催します。

日時 2026年10月17日（土）10:30～19:30（予定）
18日（日）10:30～17:30（予定）

会場 鳥取県倉吉市エースパック未来中心隣接
大御堂廃寺跡
（防災推進国民大会2026併催イベント会場）

体験展示

平常時、災害時の利用シーンでの
製品活用を体験

企業ブース

防災製品紹介の企業ブース
製品展示や商談が可能

カタログ展

簡易トイレ、簡易ベッドの実物展示
複数社商品をその場で比較

交流会

自治体職員間、官民連携を目的とした
情報交換ブース

アンケートのご案内

アンケート
ご協力のお願い 



後日、アンケートをメールで送付しますので、ご協力をお願いします
(Zoom退室後もアンケートフォームが開きます)

THANK YOU!



SENDAI BOSAI TECH